

2018年12月4日

北摂フォトロゲイニングのチェックポイント設定について

大阪府オリエンテーリング協会
オリエンテーリングクラブオ
河合 利幸

1) はじめに

高槻市を中心とするエリアでの開催は今年で3回目となる。今回は前回と同じ会場で、競技エリアを大きく変えることはできない。しかも、チェックポイント(以下 CP)として魅力のある場所には限りがある。また、いくら魅力的であっても、リピーターのことを考えると、同じ CP を繰り返し使うことには限界がある。したがって、それほど魅力度や知名度などが高くない場所も補助的な CP として使う必要がある。数が限られた魅力ある CP と補助的な CP をどのように組み合わせれば、初参加者だけでなくリピーターにも満足してもらえるのかを考える必要がある。

2) 地震・台風の影響

大阪北部地震により、多数の神社の鳥居や灯籠などが崩れたり倒れたりした。その結果、境内が立ち入り禁止になる神社も生じた。地震から数ヶ月たっても復旧できていないところがあり、これらは CP からは外すこととした。しかし、結果的には11月には大半の神社で復旧が完了していた。時既に遅しである。

また、台風 21 号により前年の台風時以上の大量の倒木が発生した。この結果、竜仙滝への下りを含む武士自然歩道の北部、地獄谷峠へ至る林道の一部、三好山への登山道の一部を含む摂津峡公園内全域が通行禁止となった。通行止めの解除がいつになるかわからないため、それら域内への CP の設置はあきらめ、地図印刷期限(大会 2 週間前)までに通行止めが解除された道をルートに含め、CP 位置と配点の変更は行わなくてもすむような設定を行った。摂津峡公園内に CP を設けていないのはこのためである。11月15日になってようやく摂津峡下の口～上の口間の芥川沿いのルートが通れるようになり、地図に反映することができた。

3) チェックポイント配置コンセプト

各チームの戦略(ルートプラン)がなるべく分散するような配置を前提とした。大会によっては、多数のチーム、特に上位のチームがほとんど同じ回り方をしていていることがある。これは回り方に正解があるということで、それは避けたかった。今回は、

- ・北部の山林部に行くかどうか、行かずに市街地を中心にするのか、
- ・山林部に行く場合は、前半に行くのか(反時計回り)、後半に行くのか(時計回り)、
- ・56 神峯山寺を含む原地区に行くかどうか、行った場合はその後どうルートを展開するのか、
- ・西部の茨木市エリア(特に 99)まで行くかどうかするか、

を考えさせ、結果として回り方に変化を生じさせることを目指した。配点についても、特定のエリアに得点源が集中しないよう心がけた。台風の影響で CP 数を前回より減らした一方で、エリアが若干拡大しているため、CP 間の平均距離は長くなることになった。これは難易度の上昇につながり、初心者向きではないといえる。

競技後に描いてもらった上位入賞チームのルートを見ると、回り方はばらばらで、ねらいどおりであったといえる。

99 のある深山水路は、紅葉した竜仙峡の渓谷美と新名神の造形美が楽しめるアップダウンのない今回お勧めのルートであったが、訪問数は 5 時間の部 7 チーム(個人含む)のみと少々寂しい

結果だった。配点を 120 点くらいにすべきだったかもしれない。

4) スタート・フィニッシュ付近のチェックポイント

スタート直後、参加者が複数の方向になるべく均等に分散するような CP 配置を目指した。そのため、距離、配点とも同じくらいになるようにした(28, 29, 30, 31, 32)。ただし、前述のとおり摂津峡内には置けないので、必然的にスタート・フィニッシュからはある程度離れた場所に設置することとなった。

これにより、いくつかの効果が得られる。スタートに近い場所に CP があると、その CP に多数のチームが一度に到着して混雑したり、地図をきちんと読まなくても追走するだけで到着できてしまったりする。ある程度距離があると、速度差によってこれらが軽減される。

また、フィニッシュ近くに CP がないと、時間が余った場合にフィニッシュ近くの未訪問 CP を回って時間調整することが困難になり、競技後半でより緻密な戦略が要求されることになる。一方で、難易度が上がることは、3 時間の部に多い初心者にとっては厳しいかもしれない。制限時間が短い場合はなおさらである。実際、3 時間の部では遅刻が多くたが、これが一因であるかもしれない。

スタート直後の実際の訪問 CP は、28, 29, 30, 31, 32 がそれぞれ 24, 17, 11, 11, 0 チームであった。28 が多く、32 に行ったチームがなかったのは想定外であるが、まずはのばらけ方だろう。

5) チェックポイント間のルートチョイス

山林部の通行止めにより回り方のバリエーションが減ってしまったのを補うため、CP 訪問順の細かい入れ替えが考えられる配置、同一 CP 間で複数のルートが考えられる配置を目指した。前者の例としては、53 から 54 と 57 のどちらに行くか、54 と 57 の両方に行くとしたらどちらを先にするかなどである。後者の例として、54 ~ 57 間には 2 つのルートがある。登りの量に違いがあるが、おわかりだろうか。51 から 99 と 62 を取って 72 へ向かう場合も訪問順とルートチョイスによっては登りの量に差が出てくる。これについては読者への(もしいれば)次回までの宿題としておこう。

また、後者の CP 間ルートのバリエーションについては、前述した CP 間の距離が長くなることにより、自動的に満たされる例が増えた。特に市街地で顕著である。上位入賞者のルート図を見ても、必ずしもベストルートが選ばれているとは限らないことがわかる。

6) まとめ

アンケートの集計がまだなので、詳しくはわからないが、概ね楽しめて(苦しんで?)いただけたのではないだろうか。ゆるいログも多い中、初心者にはちょっと厳しいかもしれないが、競技志向の大会があってもよいだろう。

なお、コースプランナーからすると、参加者との勝負という側面もあって、競技終了後に感想を聞くのも楽しいものである。機会があれば、チェックポイント設定にもトライしてみたい。

以上